第5週
第3日

神大 14年ぶり 連覇に王手

貪欲に戦い独走

神奈川大―横浜商大3回戦と関東学院大―横浜国大2回戦が2日、サーティーフォー相模原球場で行われ、首位の神大が6―1で2勝1分けとし、関東大が7―3で連勝してそれぞれ勝ち点を挙げた。神大は勝ち点4で14年ぶりのリーグ連覇へ王手。関東大は勝ち点2で3位・商大と並んだ。2位は桐蔭横浜大。

神大は0―0の六回1死満塁で6番・冨岡泰宏（3年）が走者一掃の三塁打を放った。関東大は弥栄高出身の伊藤優希（3年）が初先発し、六回途中3失点で初勝利を飾った。

第6週第1日は6日、横浜スタジアムで神奈川工大―商大、桐蔭横浜大―国大の1回戦2試合を行う。

◇3回戦（神大2勝1分）

神奈川大	0	0	0	0	0	4	1	1	0
横浜商大	0	0	0	0	0	1	0	0	1

16

◇2回戦（関東大2勝）

関東学院大	0	0	1	0	2	1	0	3	0
横浜国大	0	0	0	0	0	3	0	0	0

7
3

伊藤が初先発初勝利

◎…関東学院大の伊藤が初先発初勝利。五回に3ランを浴びたが、直球を軸に好投し、「体全体を使って投げられた」と納得の表情だった。

最速147㌔右腕は、弥栄高時代には加賀谷監督（現厚木北高）から「強気で思いっきり投げろ」と教えを受けたという。伊藤は秋季県大会準決勝に挑む恩師に、「お世話になったし頑張ってほしい」とエールを送った。

【横浜商大―神奈川大】0―0の6回表神大1死満塁。6番冨岡の三塁打で生還し、歓喜に沸く主将夏井（中央）ら＝サーティーフォー相模原球場

14年ぶりの連覇に王手をかけ、「貪欲に戦うことができた結果」と神奈川大の主将夏井。単独首位を走る勝負強さで均衡を破ったのが六回だ。

先頭のキャプテンが中前打で出て勢いづいた。1死満塁となって打席には6番・冨岡。「汚い打球でもいいからヒットを打つのが役目」と痛烈な三塁打で先制。岸川雄二監督(45)の持つシーズン最多22打点の記録に、あと6と迫った。

五回まで4度も併殺を喫して無得点だったが、「チャンスがあるからこそ」と指揮官は前向きに捉えていた。六回にはチャンスで4番政井が歩かされたが、「それなら5、6番が一球に執着心を持ち打てばいいだけ」とナインの気持ちは一つだった。

初戦敗退した全日本大学選手権の悔しさからスタートした秋の陣で、連覇が見えてきた。それでも、「優勝どころではなく闘志むき出しで挑む」と夏井。再び凱歌を響かせるまで泥くさく戦う。

（矢部　真太、写真も）

【神　大】打安点
⑥　江　越　4 1 1
④　夏　井　4 3 0
③　伊　藤　2 0 0
H　矢　野　1 0 0
5　遠　藤　1 0 0
D　政　井　2 0 0
HD　渡　邊　3 0 1
⑧　梶　原　4 1 3
⑨　冨　岡　4 1 1
⑤　東　本　5 2 1
3　小　鹿　2 1 0
⑦　渡　邊　1 0 0
H　中　島　1 1 0
②　奥　村　1 1 0
振球犠併残
5 8 3 1 10 3 2 1 1 6

【商　大】打安点
⑧　吉　川　3 0 0
⑦　福　田　3 2 0
7　近　藤　2 0 0
H　嘉　門　4 2 0
②　吉　川　4 2 0
③　古　元　2 1 0
D　松　澤　3 0 0
H　藤　井　0 0 0
⑨　鳥　田　1 0 0
R　御　山　1 0 0
④　秋　賀　1 1 0
4　浅　原　4 1 0
H　石　子　3 2 0
⑥　金　原　4 1 0
⑤　金　子　3 2 0
振球犠併残
2 8 3 4 12 2 9 7 0

▽三塁打　冨岡▽二塁打　藤澤、梶原、中島▽盗塁　江越、夏井、梶原、古川▽失策　中島、秋山▽捕逸　奥村▽審判　齊藤、佐藤、山下次、鈴木▽試合時間　3時間3分

投手	回	打	安	責
百瀬	4⅓	18	3	0
重田	2	11	2	0
前田	1	3	1	0
中野	2	8	1	0
飯田	5⅓	23	5	3
藤村	⅔	2	2	1
川村	1⅓	8	2	1
楢舘	2⅓	10	2	1

【関東大】打安点
⑤　江　崎　4 1 0 1
③　齊　藤　3 1 0 1
H　神　南　2 0 0 0
⑧　松　井　5 3 1 1
⑨　河　西　4 1 1 1
④　冨　田　5 3 0 1
D　佐　藤　4 1 0 0
RD　御　川　2 0 0 0
⑦　古　樂　1 0 0 0
H　市　寺　2 1 0 0
6　渡　村　1 0 3 0
②　立　部　0 5 1 0
⑥　服　岩　3 1 3 3
H　部　部　1 3 3 1
振球犠併残
4 3 3 2 12 4 0 16 6

【国　大】打安点
④　福　田　4 1 0 0
⑥　伊　藤　3 0 0 0
7　5　3　5
大　沼　3 0 0 0
8　大　島　3 4 0 0
大　高　橋　1 2 0 0
⑨　森　山　2 0 0 0
②　小　島　1 0 0 0
⑦　渡　辺　1 0 0 0
7　5　玄　1 0 0 0
H　中　嶋　1 0 0 0
H　小　井　0 1 0 0
3　酒　木　0 4 0 0
D　高　子　2 1 0 0
H　金　林　2 1 0 0
③　9　木　0 0 0 0
H　桐　野　0 0 0 0
H　野　瀬　2 0 0 0
⑧　星　野　1 0 0 0
H　松　本　0 0 0 0
7
振球犠併残
5 8 1 1 8 2 9 4 3

▽本塁打　大島（伊藤）▽二塁打　佐藤、河西、服部▽盗塁　高橋▽失策　立岩、中村▽捕逸　植月、鵜飼▽審判　金子、山口、金川、川田▽試合時間　2時間54分

投手	回	打	安	責
伊藤	5⅓	23	4	3
藤崎	2⅓	8	0	0
久保田	1⅓	7	0	0
植月	4⅔	23	6	3
鵜飼	1⅓	6	2	2
勝亦	1⅓	6	2	1
上内	⅓	4	4	1
右黒	1⅓	7	2	0

V逃し2位へ一丸

商大、今季で指揮官勇退

14季ぶりの優勝で勇退を飾る―。そんな夢を逃した横浜商大の佐々木正雄監督(70)は「一つの賭けに出た俺に責任がある」と涙を浮かべた。

六回だった。それまで4安打無失点に抑えていた飯田が満塁のピンチを招く。ここで指揮官は左腕藤村の名をコール。ただ「早くこの回を終わらせたかった」と捕手の嘉門が振り返ったように、ナインには焦りがあった。藤村が投じた2球目のスライダーは甘く入り、走者一掃の三塁打で流れは相手に傾いた。

この秋は主将西林をけがで欠きながら、開幕カードで1年ぶりに勝ち点獲得。今春10連敗の悔しさをバネに「勇退する監督を男にする」とナインは奮起してきたが、春の王者の壁は厚かった。

まだ2位に入って関東地区選手権出場の望みはあり、指揮官は「苦しくても全員が一つになるしかない」（矢部　真太、写真も）

優勝を逃し、ロッカールームでうなだれる横浜商大ナインと佐々木監督⑤⓪